

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅲ		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
窪川 理英 他	404	r.kubokawa	金曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	看護活動の基本的な看護技術のうち、基本的日常生活援助技術を学ぶ。 本科目では、苦痛の緩和・安楽確保の技術、清潔・衣生活援助技術、呼吸・循環を整える技術に焦点を当て、対象者のニーズに基づいた援助を行うための知識・技術・態度を学修する。 看護技術は人を対象とするものであり、学生が自己の健康や日常生活における体験も活かし、対象者の生活機能のアセスメントによるニーズを把握し、科学的根拠に基づいた看護技術を実施する。さらに看護実施による対象への影響を文獻的・体験的に理解しながら、患者にとって安全・安楽で正確・確実な技術を修得することを旨とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ブレインセッション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	1.生活援助技術は、人間の日常生活行動がどのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習・予習を行い授業に臨んでほしい。 2.不明点や疑問点はそのまませず、授業内の意思表示や教員への質問等を行うことで解決するように主体的に取り組んでほしい。				
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②/有田清子ほか/医学書院/2021 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③/有田清子ほか/医学書院/2021 [2冊指定]				
参考書	・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第6版/深井喜代子ほか/メジカルフレンド社/2021 ・看護技術が見えるvol.①基礎看護技術/編/医療情報研究所/メディックメディア/2018				
外部教材	動画教材など、授業時に提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	日常生活援助のノードをアセスメントする視点について説明できる。	HSU (1) (3)、NS (1) (3)			
②	日常生活援助技術の目的、方法、根拠について説明できる。	HSU (2) (3)、NS (1) (3)			
③	日常生活援助において基本技術の方法を修得できる。	HSU (2) (3)、NS (1) (3)			
④	実施した看護技術を患者役学生の反応から評価し、記述できる。	HSU (1) (3)、NS (1) (3)			
⑤	看護技術における倫理的判断と対象者の権利擁護の大切さについて説明できる。	HSU (2) (5)、NS (1) ~ (4)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	活動の理解と援助方法の復習	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
2	休息の理解と援助方法・苦痛の緩和・安楽確保の技術	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
3	苦痛の緩和・安楽確保の技術 (演習:安楽な体位、タッチング)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
4	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
5	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:寝衣交換)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
6	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:清拭)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
7	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:陰部洗浄)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
8	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:足浴)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
9	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:洗髪)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
10	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:洗髪)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
11	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:口腔ケア)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
12	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術 (演習:口腔ケア)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

13	苦痛の緩和・安楽確保の技 (薬法、熱布バックケア) 呼吸管を整える技術 (酸素療法、排痰ケア)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1			
14	苦痛の緩和・安楽確保の技 (薬法、熱布バックケア) 呼吸管を整える技術 (酸素療法、排痰ケア)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1			
15	呼吸・循環を整える技術	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1			
試	筆記試験、技術試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓	・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。				
	③	✓	・形式は、記述式、選択式の混合である。				
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						課題の未提出、演習の参加状況において2~5点の減点を行う。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他担当教員	坂本文子 他						
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として15年の臨床経験、看護教員として18年の教育経験を持つ。						
実践的授業の内容	すべての看護技術は目的と根拠、患者への影響を踏まえて行うこと、そのための知識と技術の習得状況を確認しながら授業を進める。演習では患者役看護師役とで実施後の振り返りを丁寧に行い、技術の習熟に活かすことを大事にする。						
その他	・今後の社会情勢によって、シラバスの変更があり得る。						